

平成22年度「みんなでつくろう！健康とくしま県民会議」 議事録

- 1 日 時 平成22年6月18日（金）午後1時30分から午後3時まで
- 2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室
- 3 出席者 委員 41名
事務局 医療健康総局長はじめ7名

(会議次第)

- 1 開会
- 2 徳島県保健福祉部医療健康総局長あいさつ
- 3 役員選出
 - (1) 会長・副会長選出
 - (2) 幹事指名
- 4 議題
 - (1) 「あなたと書き込む糖尿病処方箋」事業の概要について
 - ・「ヘルス・グリーン・ツーリズムin徳島」事業
 - ・健康とくしま”ウォーキング・ラリー”事業
 - (2) 地域スポーツクラブフィットネス事業について
 - (3) その他
- 5 閉会

【議事概要】

1 開会

2 あいさつ

細井医療健康総局長あいさつ

3 役員選出

(1) 会長・副会長選出

津田とみ委員が会長、中川委員、脇委員が副会長として選出され、委員一同より承認を得る。

(2) 幹事指名

事務局より幹事案を提示。原案どおり、委員一同より承認を得る。

4 議題

(1) 「あなたと書き込む糖尿病処方箋」事業の概要について

事務局：資料に沿って説明。

会 長：いつ頃募集を始めるのですか。

事務局：ツアーは旅行業者を通すようになるので、その後の募集になります。

会 長：7月頃には募集をされますか。

事務局：はい。

委 員：徳島県が糖尿病死亡率ワースト1位の原因は何ですか。原因を把握してからの政策をすべきではないですか。1年や2年の短期間では治りません。

会 長：原因を探るための研究と、悪くならないような対策があるかと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：平成15年度に県民健康・栄養調査を実施しました。その調査から、男女とも全国平均に比べ、1日の歩行数が約1000歩少ないという結果が出ました。また、いも類、果物類をよく食べるという結果が出ています。糖尿病は肥満も原因なので歩くことは対策になります。この県民会議でも「今日も元気に 歩かな損々健康とくしま運動」のキャッチフレーズを作りましたし、県医師会でもプラス1000歩運動もしております。また、徳島マラソンを実施することで、ジョギングをされる方も増えています。歩くことを広げていこうということで、徳島県には遍路道もありますし、歩く楽しみを感じてもらい、歩く習慣をつけて生活習慣に繋がるように今回の事業を考えております。また、平成22年度には県民健康・栄養調査を実施しますので平成15年度の調査結果と比較したいと思います。さらに、徳島大学では健康医療クラスターで、糖尿病の原因研究として1000

人規模のコホート調査をしています。そこでは、血液検査など詳しい研究がされますので、血液検査でも成果が出たら、県の取り組みに活かしていきたいです。今年度はウォーキングを中心に進めたいと思いますので、県民会議の皆様もご参加をよろしくお願いいたします。

委員：平成19年度に糖尿病死亡率がワースト1位から改善されましたが、再び平成20年度に1位になりました。その辺りのデータを知りたいです。

事務局：平成19年度と平成20年度を詳しくみると、徳島県の場合、75歳以上の方で糖尿病死亡数が多くなっています。県医師会でも話に出ておりますが、それまで合併症もなく生存されているということは、悪くはないことです。糖尿病死亡率が高い理由としては、高齢者が増えていることが原因の一つにあります。これからその辺りを積み重ねてみていきたいです。

(2) 地域スポーツクラブフィットネス事業について

事務局：資料に沿って説明。

委員：測定結果の前後比較について、53名はAコースもBコースも併せた結果ですか。

事務局：そうです。

委員：では、月1回でも効果があったということですね。

事務局：そうですね。やはり回数を多くされている方がより効果があったようですが、このコースだけでなく家庭でも取り組まれていたようです。

委員：参加者の平均年齢はどれくらいですか。

事務局：平均年齢について、いけだスポーツクラブが54.1歳、K-F r i e n d s が53.7歳、上板ふれあいクラブが56歳となっています。

委員：女性の参加者が多いですか。

事務局：女性が9割程度です。

会長：男性に対してももっと声をかけないといけないですね。まだ、数は少ないですが、今年度で基盤ができたようですね。多くの方に有効という数字も出ていますね。

委員：子どもの肥満の予防事業はないですかとよく質問されます。一昨年、徳島市が肥満の児童を対象としてスポーツや講義や検診を実施されました。2カ年の事業でしたが、地域スポーツクラブでも、子ども、学童の肥満者を対象にしたものがあればよいと思います。

事務局：昨年度は成人を対象としていますが、今年度は子ども対象として、運動と健康づくり専門部会で協議して反映できればと考えます。

委員：今、ご説明がありました徳島市の2年間の事業は国費がついていましたが、今はなくなっています。医師会の先生にも、子ども、児童を対象として肥満等の対策には御協力いただいております。また、学校でも専門的な先生を派遣するという事業もし、相談や検診等もしています。やはり運動習慣と肥満は関係がありますので、県教育委員会でも、体力の冊子を作り学校に配布しましたし、体力100日作戦で、動く機会を与えていこうという事業もしています。体を動かすこと、肥満、食べること、これを考えて取り組みを進めております。

委員：社会福祉協議会は地区住民協議会を作り、年何回か研修等を開催したりいろいろと活動しています。

会長：この県民会議を情報交換の場として活用していただけるとありがたいですね。

委員：一昨年度より、県からウォーキング事業を委託されていますが、健康な人はより健康に、運動をしない人はずっと運動をしない傾向が強いですね。動かない人をどう動かすかが課題です。ウォーキング教室を日中に開催すると女性の方がたくさん来られますが、今年から夜間に開催すると、男性が増えました。多くの方のウォーキングの場を作ることが重要ですね。歩く時も、暗いと危険性があるので、ハード面の考え方も推進する必要がありますね。また、やはり子ども達の運動習慣が危惧されます。関係機関が一緒になって取り組む必要があります。ウォーキング協会では、今年「食育」と「歩育」を両輪としてシンポジウムを開きたいと考えています。

(3) その他

勢井(啓)委員より、がん検診受診率向上のための企画(高校・大学等の文化祭・学園祭を通じて子供から親へ直接がん検診を受けてもらえるようメッセージを送ってもらうような企画)を説明。

勢井(啓)委員：今年、徳島県でがん対策基本条例が施行されました。早期発見のため、がん検診受診率を上げることが大事ですが、がん検診受診率は非常に低く、2割に満たないくらいです。欧米では、8割、9割と非常に高いですが、個々にフォローが出来ているからです。日本は個人保護法の関係等で突っ込んだところまでいけないことから、検診受診率が上がらないと考えられます。東京で年2回程度、全国の患者会、家族会の方が集まった会が開催されます。そこで、子どもから親へ、直接がん検診を受けてもらえるようメッセージを送ってもらうような話がありましたが、とても良いと感じました。主体が子どもになるため、学校に力を借りなければいけません。また、これをする事で、親子関係も良くなるそうです。県民会議にはメディアの方もいらっしゃるの取り上げていただければうまくいくと思います。平成21年度の徳島県の悪性新生物による

死亡数はワースト14位なので、県民会議の議題として取り上げてもらい、前向きに取り組んでいけたらと思います。

委員：高等学校でどのような取り組みができるか考えておりましたが、多様な高校があるので、なかなか一律には難しいと思います。生徒会、家庭クラブ等の自主的な取り組みで積み上げていけばおもしろい取り組みができるかもしれません。小学校、中学校、高等学校と長いスパンで考えていくことも大切だと思いました。

委員：小学校では、エイズ教育や薬害乱用防止等について関係者を読んで教室も開いています。保健委員会で子ども達の肥満や生活習慣について、子ども達を通じて啓発しています。がんの関係については、県下全体の小学校を調べてみますが、一つで動くよりは、市町村単位やブロック単位で推進した方がスムーズにいくような気がします。

会長：今日はこの場で詳細を決めるのではなく、幹事会に勢井委員さんも参加していただき、中長期的な視野も含め、何が実現に近い課題としたらいいと考えますが、いかがでしょう。他にありませんか。

委員：文化祭はテーマを持って各学校でしています。高校であれば家庭クラブ等で積み上げてしていかなければいけませんね。今現在、がんに対してしていることはありませんが、今後考えていかないといけないと思います。

会長：本日提案のありました、がん検診の受診率向上に向けた取り組みについては幹事会で協議することでよろしいでしょうか。

事務局：はい。勢井委員にも幹事会に参加していただき、検討していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

5 閉会